

事業所名 グループホーム なごみ

日付 平成 19年 8月 31日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 薬剤師・介護支援専門員

介護経験歴7年

自主評価結果を見る (工事中)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

季節感に満ち溢れた野菜が隣接した畑に植えられています。また建物の周りには、プランターに植えられた彩色に満ちた花が華やかであり、心を和ませ、入居者の心をとりにしたり、季節に彩られた草木や収穫物を心待ちにしたりしています。

入居者は高齢の方が多く、徐々に外出の機会は減っているようです。少しでも外に足を運べる様に工夫している職員の姿や職員の笑顔、やさしい言葉掛け、気配りが印象的でした。職員の仕事の分担も自然に感じ、入居者と一体となって暮らせる施設となっています。

医師が頻りに顔を見せて安心感も増え、毎日夜9時には入居者の状態を職員は医師に電話で伝えています。行き届いた対応が生まれ、職員にも家族にも深い絆を与えています。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

高齢になってきた事や、車椅子の入居者が増えた事もあり、外部との接点が自ずと少なくなっているため、外から来てもらうことや、人とのふれあいを増やせる配慮をお願いします。運営推進会議の開催もあまりできていないようなので、会議を利用してみたいかがでしょう。また車椅子の方が多くなっています。入居者がどこにいるかが分かり、職員の気配りに安堵感が見られ、かえって緊張感が不足気味になり、見守りにくい場面も多少見られました。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	「居心地のよい住まい」「人生の先輩から学ぶ」「安らぎのある生活」を基本理念にしています。職員は大きな声を出さないことや、走ったりしないことを常に心がけ、入居者を興奮させないようにしています。ゆったりとした生活、落ち着いた暮らしをめざしています。 入居者が高齢になり車椅子の方も多くなってきたので、のんびりとした生活ができるようにと考えています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	家族の方に入居者の癖や生活習慣などを教えてもらい、対応の方法に活かしています。日々、入居者との会話を重視しています。また見守りをしっかり行い、入居者が不穏になりかけると場所を変えたり、外に連れ出したりするなどして気分転換を図っています。優しい言い方を徹底することで、入居者が何をやりたいのか聞き出そうとしています。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者が話しかけて来ると職員は良く話を聞いてあげて、入居者の自尊心を傷つけないように心がけています。居室に入る時も必ずノックをしてから入っています。入居まで食堂で働いていた入居者にはおしほりたたみや食事の下準備をお願いしていますが、それが大変落ち着くようです。また足の不自由な入居者は1日中、新聞たたみをしていましたが、職員もそばで話しかけながら決して一人にならないように配慮していました。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	転倒などのヒヤリハットが起これば、定期的なカンファレンスの中で解決策を職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいます。遠方の家族が面会に来て、食事や買い物に出かける時には、職員が運転してサポートしています。また、加齢と共に入居者の運動能力が低下しているため、会話の時間を多く取るようにしています。		